

ふくいきらめきフェスティバル2007連携イベント

～乳がんからあなたを守りたい～

ピンクリボン in ふくい2007

報告書

とき 2007年 6月23日(土)・24日(日)

ところ 福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)

主催 ふくいピンクリボンの会

連携 ふくいきらめきフェスティバル2007(ふくい女性のつどい実行委員会)

後援 福井県・(社)福井県医師会・福井県外科医会・(社)福井県放射線技師会・(社)福井県看護協会・
福井新聞社・NHK福井放送局・福井テレビ・FBC福井放送・(財)福井県健康管理協会

P NK R IBBON in FUKU I 2007

6月24日

10:30~12:00

基調講演

講師 松田 寿美子氏
(NPO法人「J・POSH」事務局長)

12:00~16:00

乳がん無料検診

対象：40才以上の女性
人数：80名(先着順)

12:00~15:00

自己検診法の紹介

乳がん相談コーナー

人工乳房・術後下着の展示

6月23日・24日

ギャラリー展示



ごあいさつ

福井県内で初めて開催された乳癌撲滅イベント、『ピンクリボン inふくい 2007』は、皆様のおかげで盛会に終了いたしました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。6月24日はあいにくの雨にもかかわらず、松田寿美子氏の講演、乳癌無料検診や展示相談コーナーなどに、多数の来場者がお見えになりました。また、6月23日には、胸にピンクリボンバッジをつけた西川知事がブースにおこし下さり、福井県としても乳癌対策に積極的に取り組む意気込みをお示しいただきました。多くのボランティアや学生さんのご協力もいただき、「明るく、仲良く、楽しく、一生懸命」に会が運営できたことも、すばらしい思い出となりました。

「みんなの力を結集することは、本当にすばらしい。乳癌撲滅の日は遠くない。」今回の『ピンクリボン inふくい 2007』を終えて、そう実感しています。しかし、福井県のピンクリボン活動はまだ始まったばかりです。活動を継続すること、そして広めること、それにはメンバーのなお一層の努力が必要です。そして今回後援、協賛をいただいた皆様からの継続的御支援やマスコミ関係のご協力も、今後とも賜れば、本当に力強い限りです。ふくいピンクリボンの会では、今後とも、年1回のイベント開催に加え、地域の行事などに参加する形で地道な活動を展開する予定です。今後とも、御協力御指導の程、よろしく願い申し上げます。

ふくいピンクリボンの会 会長・福井県済生会病院 外科 笠原 善郎



皆様お疲れ様でした。EM Lの会の皆様、学生さん、乳がん診療に携わっている医師・放射線技師・看護師等が一体となって乳がんの啓発活動ができて本当に良かったと思います。J POSHの松田さんの講演も説得力がありましたね。

私はこれまで、日本のピンクリボン運動は乳がん患者の松田さんを中心にして始まったのかと思っていました。しかし実際には松田さんは乳がんの体験者ではなく、ピンクリボン運動は乳腺外科医でありながら姉を乳がんで亡くした友人(J POSHの田中完児理事長)を励ますために仲間内で始めた運動とお聞きし、またまたびっくり。友達の輪、大阪のおばさんパワーを見せつけられました。当日はJ POSHから寄贈されたマンモ撮影装置を搭載した検診車のお披露目も兼ねて無料検診を実施しました。無料ということもあって予約の電話が殺到し、すぐに定員に達して様々なクレームもありましたが、当日は72名の方に受けていただきました。そのうち初回受診者が58%、乳がんが好発する40~59歳の方が74%を占めたのは有意義であったと思います。

これからは無料でなくても、自分自身のため家族のために進んで検診を受けていただきたいと思います。そのためには検診機関として、市町や事業所の理解を得ながら年間を通じて万遍なく検診計画を立て、今まで以上に受けやすい会場や時間帯での検診の提供に努めていきたいと考えています。

2007年は福井県におけるピンクリボン運動元年です。乳がんから働き盛りの女性を守るため、皆で力を合わせて乳がん撲滅運動を展開して行きましょう。

(財)福井県健康管理協会 松田 一夫



皆様 ご苦労様でした。そして、ありがとうございます。

乳がん体験者の方の「1人でも多くの方にマンモグラフィ検診を受けて欲しい。そして自分たちと同じような思いを持って欲しくない」そんなひとつの願いがありました。

医療関係者、行政、そして、同じ思いに賛同する人たちが、この場に集いました。乳がん体験者の方たちは、医療関係者やボランティアの方に助けられ、それらの人は乳がん体験者の方の思いや頑張りに応えようと精一杯の支援をしてくださりました。それが、立場を超え小さな努力の積み重ねで大きな輪を築き、ひとつのうねりを生み出すことができたのだと思います。

私自身も、皆様に刺激され、支えられながらお手伝いさせていただくことができましたことに深く感謝しております。

今回は、思いもかけず大きなイベントに発展いたしました。乳がん撲滅には、小さな活動の積み重ねがとても大切です。途中で息切れすることなく、活動を継続させていけるよう、余力を残しながら頑張りたいと願っております。

県としましても、県民の皆様ががん検診を受けていただき、健康で幸せな生活を送っていただきたいという願いから、がん対策を推進しております。特に乳がんにつきましては発症年齢が若く、早期に発見すれば治る病気であることから、マンモグラフィ検診車の整備を進め、1人でも多くの方に検診を受けていただきたいと、受診率向上を目指した施策を展開しているところですので、皆様の活動をとっても心強く感じております。これからも皆様方とともに頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

福井県健康福祉部 健康増進課 山本 裕美



「EM Lの会」を代表しまして、一言お礼を申し上げます。

笠原先生をはじめ、運営委員の皆さまと、福井ピンクリボン運動に参加できた事を心より感謝しております。そして、福井の女性が乳がんで死なないための運動を、運営委員の皆さまと力を合わせていく事が、私たち「EM Lの会」に元気を頂けると思っております。ご協力いただきました賛助会員のみなさま、会員になって下さいました方々にお礼を申し上げます。これからも、福井ピンクリボン運動を続けて行く上には、皆さまのご協力が必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

EM Lの会 代表 野村 典子

相談コーナー

当日は、日頃の外来と比較し、随分時間的余裕のある中で相談に応じることができたような気がします。医師の相談コーナーに計10名、看護師の相談コーナーに計4名、のべ14名の相談者が訪れました。乳癌全般についての質問が半数以上を占めました。実際の患者様からの相談もございました。無論、そういった患者様は主治医には絶対的な信頼感を持ちながらも、病院から少し距離を置いた場所でのざっくばらんな相談を求めているようにも思いました。要望にお答えできたかは定かでは有りませんが、そういった意味でも非常に存在意義の有るコーナーであったのではないかと考えています。

一方、看護師の相談にはリンパ浮腫に関する質問など、具体的な内容が多く、これもまた有意義な時間であったのではないのでしょうか。

反省点も少なからずございますが、次回への糧としたいと思います。

福井県立病院 外科 大田 浩司



自己検診・相談コーナー

乳房は自分で触ることのできる臓器であり、しこりでみつけることが最も多いのが乳癌です。でも、検診だけでは乳癌を100%見つけることは不可能です。自己検診する習慣を身につける事で、自分の乳房を知ってもらうことが大切だと思います。

自分の体についてもっと興味を持ってもらうこと。自分の体の変化に敏感になること。これがとても大切なのではないのでしょうか。乳癌を見つけるつもりで触るのではなく、自分の乳房を知るために自己検診を始めたいです。

また健康相談も、医療者に相談をするというスタンスも大切ですが、気になることを気軽に話せる場所を提供でき、自分の体について考えてもらう機会になればいいと思いました。

病院では聞きづらいことや、日頃悩んでいたことなどを口に出して話すことで、自分で気づくことがあれば解決はしなくても有意義な時間になると思います。

プライバシーを保ちつつ、気軽に話せる時間にできるよう心がけたいです。

福井赤十字病院 外科 田中 文恵



術後下着・人口乳房コーナー

皆様のご協力を得て、『ピンクリボン inふくい 2007』を開催することができ、無事終えることができましたこと、心より感謝致します。

術後下着・人工乳房ブースでも多くの方々に、術後補正具についての展示・情報提供、試着体験をさせて頂きました。多くの選択肢の中から、それぞれの生活や思いにあったものを選んで頂けるよう活動を続けるとともに、術後の悩みを抱える方のお力になればと思っております。

今後もピンクリボン運動に参加させて頂き、少しでも乳がんが悲しむ方が少なくなりますことを心より願っております。

EMLの会 織田 静香



講演会コーナー

6月24日、10時から、ユー・アイふくい 映像ホールにて、NPO法人「J POSH」事務局長である松田寿美子氏をお招きし、「あなたとあなたの愛する人を乳がんから守るために」と題しまして、インパクトの強い基調講演を約1時間にわたり行っていただきました。日本では、女性が1生涯に乳がん罹患する確率は22人に1人の割合で、最近急速に増加し、乳がんの死亡者数も年々増加し、2005年には1万人を超えていることや、日本での乳がん検診受診率が、現在11.3%であり、欧米諸国の乳がん検診受診率が70~80%であることから、とても低いことを教えていただきました。乳がんの好発年齢が40歳代であるので、このままでは、家族の中心であるお母さんが乳がん罹患して死亡されるケースが増えて、御主人や、その子供さんなど家族全体が不幸に陥ることが示されました。このような悲劇を防ぐことは、乳がんを早期に発見すれば可能であり、そのためには乳がん検診を積極的に受けることが大切であること、乳がん検診を受ける機会がなければ、市町村へ乳がん検診を受けられるように要求すること、すでに乳房にしこりや痛みを感じていたら、近くの病院の乳腺外来を受診することなど、女性みずから積極的に行動をおこすことが、何よりも重要であると強調されました。

福井大学医学部 附属病院 第一外科 前田 浩幸



無料検診コーナー

乳がんへの関心の高さに感心しました。この気持ちが一時でなく、毎年の住民検診受診につながることを願います。

検診を各市町が実施していること、しかも休日検診もかなりの回数で実施していることが皆さんに伝わっていないのをあらためて知りました。今回の広報(放送関係)の力は大きかったですね。

(財)福井県健康管理協会 黒川 郁子



運営委員より

毎月1回の夜間の会議、仕事を終えた方から一人ずつ人数が増えていった準備会を重ね、初の大きなイベントに取り組みました。協力をいただいた多くの皆さんに感謝と、「乳がん予防」啓発や検診受診の大切さを感じます。委員のみなさん、お疲れさまでした。これからもよろしくお願いします。

ふくい女性財団 前田 一美

乳がんの体験者として、今元気に過ごしていることの感謝の気持ちとして、何かお役に立ちたいと思い、参加させていただきました。

ほんの小さな力でも、みんなが揃えば大きな大きな力になることを、身をもって感じました。イベントの後、うれしくて涙が出ました。みなさん、どうもありがとうございました。

EMLの会 竹澤 久子

たくさんの方に支えられ、また多くの方に参加頂けた機会となったこと、本当に感謝の思いで一杯です。少しでも福井の皆様に「乳がん」について知るきっかけとなればと思ったことがこの会に参加するきっかけでした。この機会を通じ皆様の思いや不安をじかに知ることができたことや、たくさんの方と知り合いになれたことは自分にとって大きな財産となりました。しかし不慣れたことや反省する点も多く、次回に生かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

福井県立病院 化学療法室 木谷 智江

職業柄、普段より多くの患者さまと携わっており、いつも「私にでも、何か力になれることがあるのか?」と感じていました。

今回の活動を通して、たくさんの方に出会えたこと、少しでも多くの方に乳がんの事を知っていただいたことをとても嬉しく思っています。

今後もみなさんと検診の必要性をたくさんの方に広めていきたいと思えます。

「乳癌は早期に見つければ、治るんですよ!」

福井県済生会病院 放射線部 岡田 香織



福井でもピンクリボン活動をしたいとずっと思ってきましたが、どうしたら実現できるのか、わからない状態でした。今回、志をひとつにするいろいろな職種あるいは患者会の方たちが集まって、それでもはじめは実現するのだろうかと思いましたが、本当にこのような素晴らしいイベントが開催できて、感動しています。これもひとえに皆さんの、「乳がんで亡くなる方を一人でも少なくしたい!」という熱い思い、があってのことだと思います。特に私が担当した無料検診については、県健康管理協会の方々に大変ご協力いただき、本当にありがとうございました。今後もこの火を消すことなく、もっともっと大きな輪に広がっていくことを期待しています。

福井県立病院 放射線室 西出 裕子



今回のピンクリボンの活動を通して、一つのことに向かって、皆が集まり、活動を成し遂げるのは、時間とみんなの気持ちが一つにならないと出来ないことなんだと思いました。たくさんの方の、協力があって出来たことにとっても感謝しています。

今回の乳がんに対する、地域の皆さんの意識が高まり、早期発見、早期治療が出来るように、自分が出来る活動はどんな事か考えていきたいと思っています。

福井県済生会病院 看護師 柳谷 桂子



私のピンクリボン運動との出会いは、2006年に「EMLの会」のみなさまが中心となって行われた、大和田のショッピングセンターでのイベントにボランティアとして参加したことがきっかけでした。「乳がんで悲しむ人を1人でも少なくしたい」という熱い思いのこめられた、1から手作りのイベントが1粒の種となり、運営委員、ボランティアの皆様の思いがたっぷり注がれて、今こうして、美しい花を咲かせることができたように感じています。そして、これから、より多くの福井の女性に乳がんについて知っていただくという実りがあることを祈って、いつまでもこの花を絶やさぬように、素敵な出会いを大切にしながら、地道に活動を続けていきたいと思っています。

福井大学医学部 看護学科 麻生 佳愛



当日のデータ

配布ティッシュ	約500個
配布リーフレット	約700枚
講演会参加者	80名(内一般64名)
無料検診受診者	72名+2名(TV局)...うち57.5%が初めての受診
相談コーナー	14名
参加ボランティア	のべ48名
新規入会者	37名



主催・連携・後援・協賛

主催：ふくいピンクリボンの会

連携：ふくいきらめきフェスティバル2007(ふくい女性のつどい実行委員会)

後援：福井県(社)福井県医師会・福井県外科医会(社)福井県放射線技師会・

(社)福井県看護協会・福井新聞社・NHK福井放送局・福井テレビ・FBC福井放送(財)福井県健康管理協会

協賛：セーレン(株)・NPO法人J POSH・エイボン・プロダクツ(株)・アストラゼネカ(株)・伊藤医療器(株)・福井県外科医会・(社)福井県放射線技師会・ユコー(株)(株)ダイワ広告・アステラス製薬(株)・協和発酵工業(株)・サノフィ・アベンティス(株)・武田薬品工業(株)・富木医療器(株)・日本イーライリリー(株)・日本化薬(株)・ノバルティスファーマ(株)・ファイザー(株)・福井県民生活協同組合・フクビ化学工業(株)・丸文通商(株)・GE横河メディカルシステム(株)・オーダーボディラボ・コロプラスト(株)・福井医療(株)・福井テレビ(株)・ブライトアイズ・大鵬薬品工業(株)・プリストル・マイヤーズ(株)・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)・越屋メディカルケア(株)・田辺製薬(株)・塩野義製薬(株)・大正富山医薬品(株)・中外製薬(株)・日華化学(株)・Craps・メドー産業(株) (順不同)



取材協力

福井テレビ・FBC福井放送・福井新聞社・

TBSテレビ(7月18日「余命一ヶ月の花嫁」で全国放映)



運営委員

笠原善郎(福井県済生会病院外科)・田中文恵(福井赤十字病院外科)・前田浩幸(福井大学医学部附属病院第一外科)・大田浩司(福井県立病院外科)・松田一夫((財)福井県健康管理協会)・黒川郁子((財)福井県健康管理協会)・山本裕美(福井県健康福祉部健康増進課)・前田一美(ふくい女性財団)・西出裕子(福井県立病院放射線室)・木谷智江(福井県立病院化学療法室)・岡田香織(福井県済生会病院放射線部)・柳谷桂子(福井県済生会病院)・間部知子(福井大学医学部看護学科)・麻生佳愛(福井大学医学部看護学科)・野村典子(EMLの会)・上見淳子(EMLの会)・竹澤久子(EMLの会)・織田静香(EMLの会)・辻喜代子(EMLの会)・斉藤弥生(EMLの会)

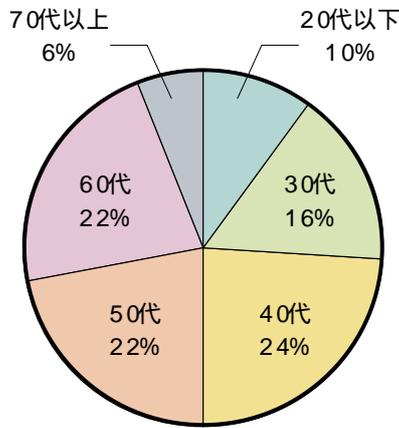
編集後記

今、こうしてみなさんからの原稿をいただき読み返してみますと、あの時の感動がよみがえり、目頭が熱くなってきます。夜遅くまで頭を突き合わせてあーでもない、こーでもない議論したことや、ひとりひとりがイベントを成功させようとそれぞれの持ち場で一所懸命奮闘したこと、イベントが成功裏に終わりみんなであれい杯を重ねたこと、いろいろな思い出が走馬灯のように脳裏をよぎります。このイベントが成功に導かれたのも、後援・協賛をいただいた各機関・企業の方々、明るく元気なボランティアの皆様、素敵なポスターを作製してくださった中田様ら、支えてくださったすべての方のお力添えあってのことと感謝感激雨あられです。今後とも温かいご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いします。笠原先生がこんなことをおっしゃってましたよね・・・「福井県のピンクリボン活動はまだ始まったばかりです。活動を継続すること、そして広めること、それにはメンバーのなお一層の努力が必要です」。そうですよね、これからですよ！

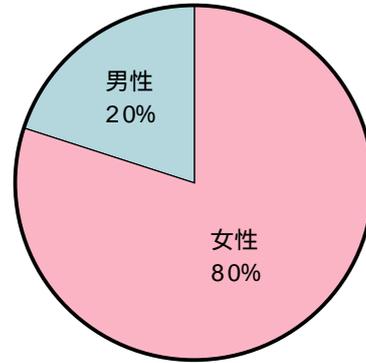
(K A)

有効回答数 50

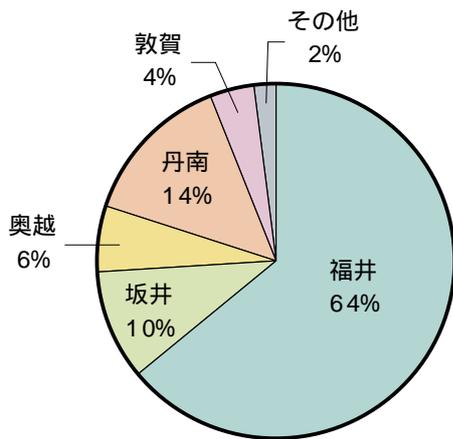
● 年齢



● 性別

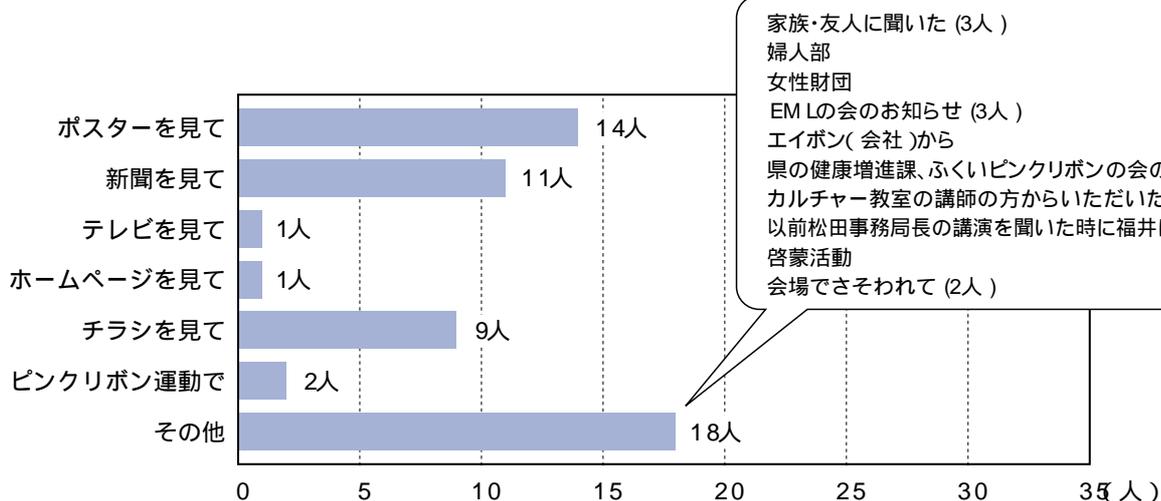


● 居住地区



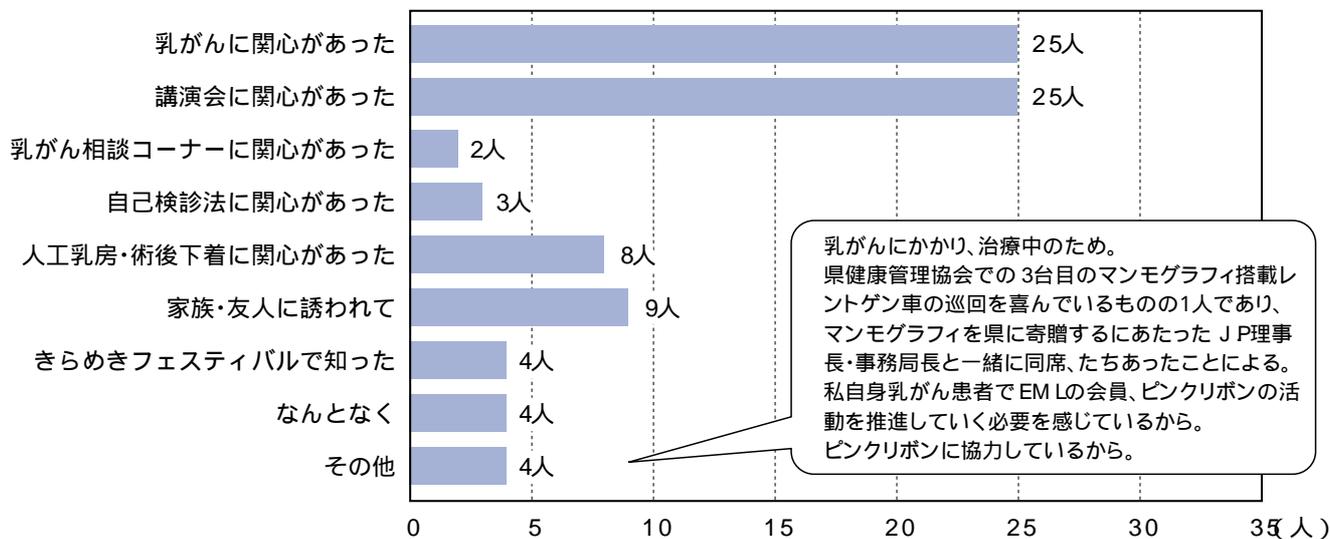
● イベントの開催をどこで知りましたか？

【複数回答】

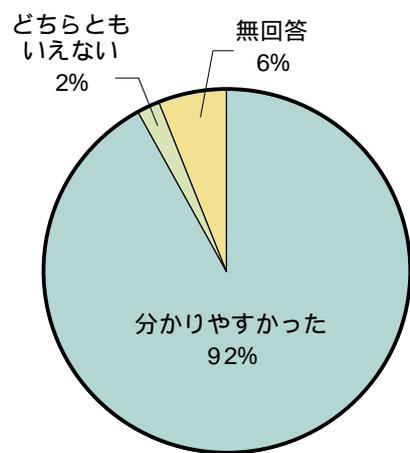


「ピンクリボン inふくい 2007」に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

【複数回答】



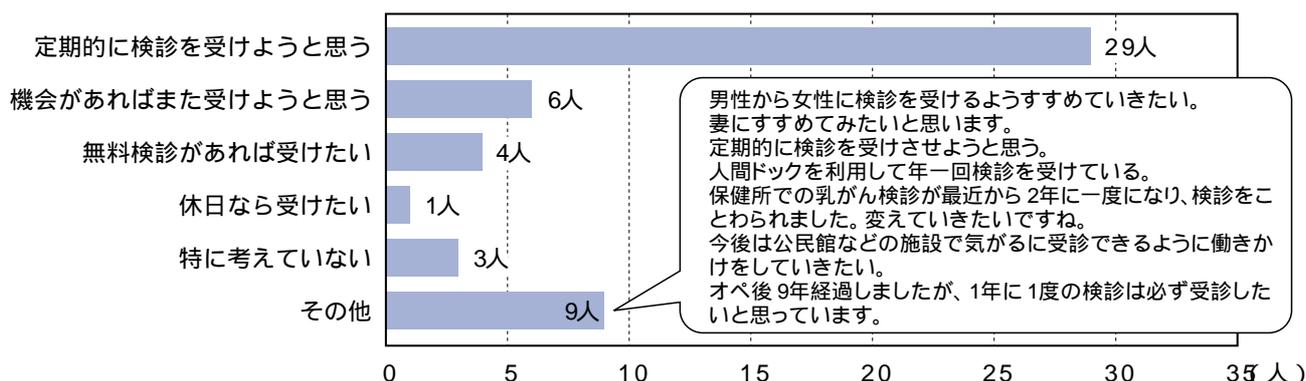
講演の内容はいかがでしたか？



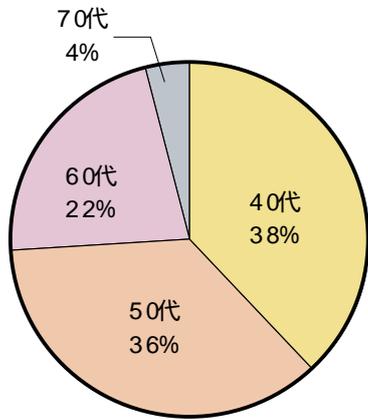
とても良い勉強になりました。地域に広めたいと思います。感動しました。何回か涙が出ました。とても良かった。松田氏のパワーをもらって、私にできること頑張ります。松田先生の自験例が印象的でした。私も知っているけど知らない人の1人でした。今日から..頑張るゾ！乳がんばかりでなく、女性がかかりやすい病気(子宮がん)等の講演等もあわせてして頂けたらうれしいです。とても良い試みだと思います。2日間にわたり関係者の方が情熱的に活動している姿に感動しました。もっと興味・関心を高めるべきだと思います。保健所の集団検診で再検診という結果をもらい、大きい病院で検査を受けました。再検査の時には、もう心配で自分がパニックになりました。毎年の定期検診を受けていたから見つけられ良かったと思うように今はなってます。ピンクリボン運動が大きな広まりとなりますように!!ピンクリボン運動が福井でも開始されて、とてもうれしく思います。県内でこの運動が盛り上がり、乳がん早期発見、早期治療、推進できることを願っています。大切さはわかりながら、無関心でした。体が振れる思いです。娘が結婚し、子供をさずかりました。可愛い孫の為に娘にも検診の必要を伝えます。子供に受診の必要性を伝えたい。ピンクリボンの会をはじめて知った。もっと案内、ピーアールしてほしい。

今後の乳がん検診についてどのようにお考えですか？

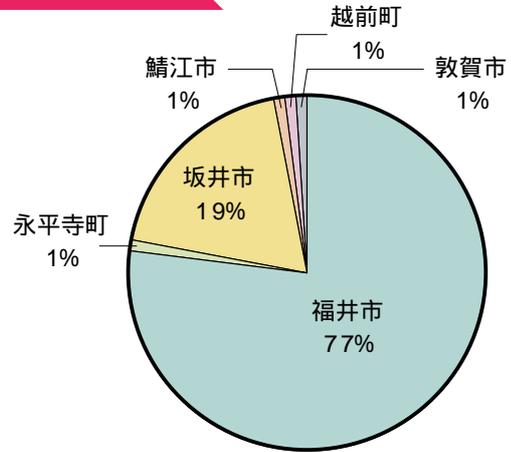
【複数回答】



● 年齢

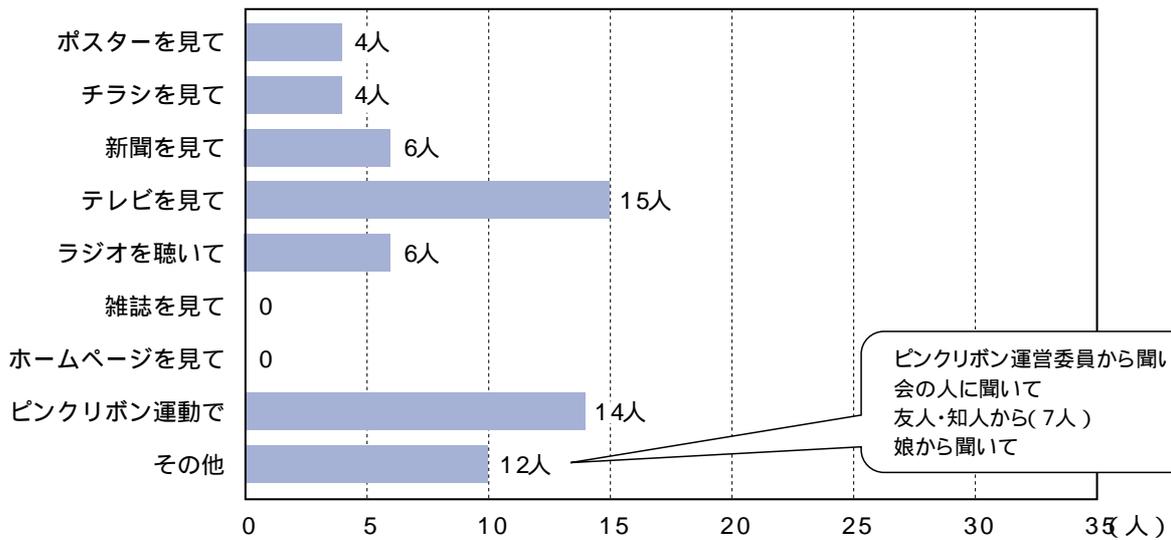


● 居住地



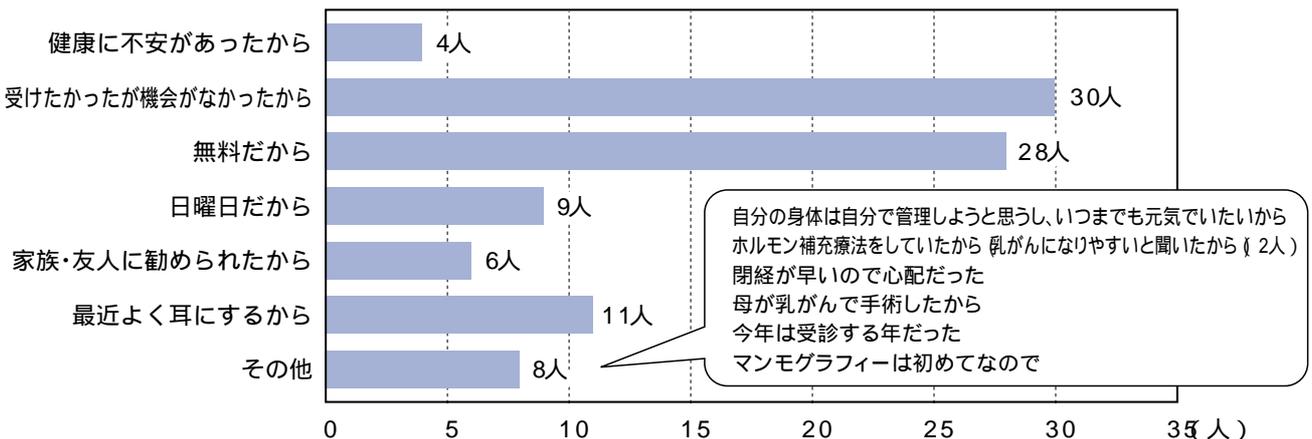
● 乳がん無料検診についてどこで知りましたか？

【複数回答】

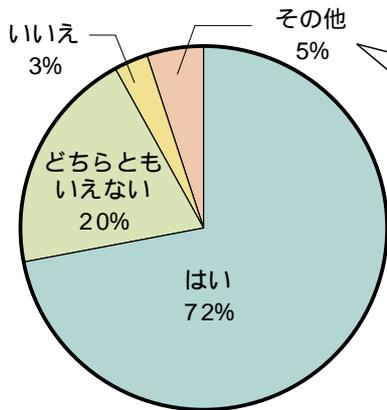


● 乳がん無料検診に申し込もうと思ったきっかけは何ですか？

【複数回答】

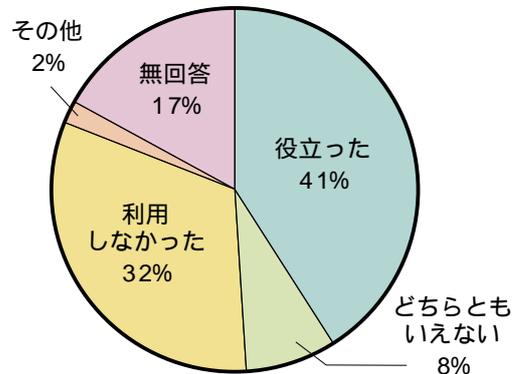


● 開催場所は適切でしたか？



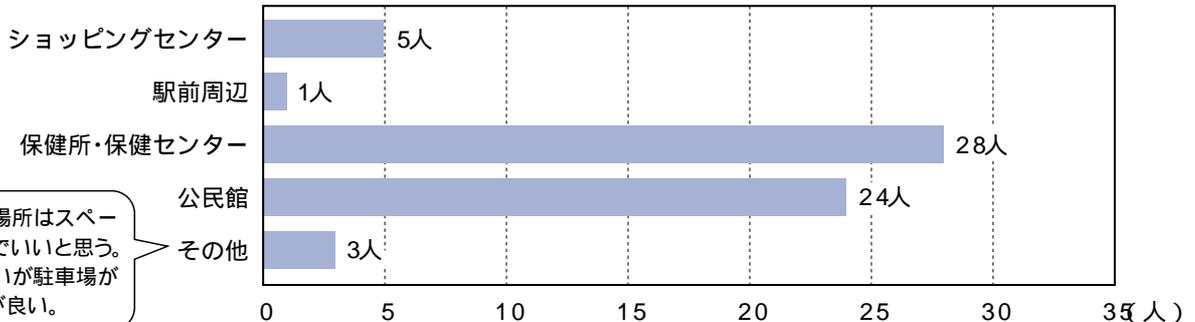
受付で少々トラブルがあったようだが、次回からスムーズにいくといいなと思う。遠いと思った。自宅(春江)からは少し遠かった。もっと近いと良かった。

● 乳がん相談コーナーはいかがでしたか？



● 今後、無料検診が行われるとしたらどこが良いと思われますか？

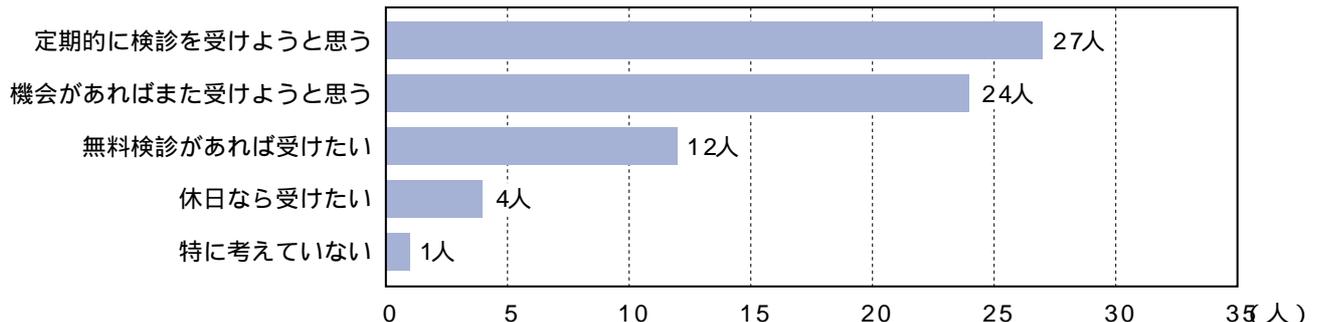
【複数回答】



今回のこの場所はスペースもあるのでいいと思う。特に希望ないが駐車場があると良い。

● 今後の乳がん検診についてどのようにお考えですか？

【複数回答】



● ご意見・ご感想

テレビ局の取材はちょっと嫌だった。映ってなくても嫌だ。
 又このような企画をして欲しい。
 定期的に無料検診をして欲しいです。
 市の検診では2年に一度しか受診できないため、このような企画を毎年して欲しい。
 係りの方や先生がとても親切で感じがよかった。
 触診が女性の先生だったのでよかった。女性の先生がいる病院がわからない。
 今回受けてよかったと思う。
 とても良い提案で本当に良いと思います。福井県が一番に乳がんの人が多いとのことですから。
 今回受ける機会があり、大変良かったと思います。ありがとうございました。
 マンモグラフィーを受けられない地域(県下)で開催していただければ皆さん喜ばれると思います。
 初めての経験でとても緊張した。

PINK RIBBON in FUKUI 2007



ふくいピンクリボンの会

〒910-3616 福井市真栗町47-48 ふくい健康の森・(財)福井県健康管理協会 内
TEL: 0776-98-8000(代) FAX: 0776-98-3502 <http://www.pinkribbon-fukui.com>